

■「タックル自慢、夏に鍛える－1部6校のLBたち」⑤

機動力に自信－北海学園大

8月7日、北海学園大ゴールデンベアーズの夏合宿が道北の美深町で始まった。この日の美深は最高気温が32.7度の猛暑となったが、札幌からバスで4時間余りをかけて到着した35人の選手たちは、びふか温泉隣接の芝フィールドに白線を引き終えると、早速練習を開始した。北海学園大の美深合宿は8年ぶり。練習前には、娘がゴールデンベアーズの元主務だった縁で駆け付けた草野孝治町長から、「熱中症に留意して、秋の戦いを頑張ってください」と激励も受けた。

今季、3年ぶりの北海道学生選手権優勝を目指す北海学園大。昨年のリーディングラッシャーのRB高杉武生（4年、浦河高）と伝統のパス攻撃で春季オープン戦は釧路公立大に20-3、帯広畜産大に41-7、北海道大に37-0と3連勝した。攻撃陣だけでなく、守備陣の好調さも目立った。4-3守備の中核のLBは、副将で守備リーダーでもある池原響生（4年、伊達緑丘高）と、早川大翔（4年、札幌新川高）、樺田裕丈（3年、静内高）。「他チームに負けない機動力がある。ラン、パスプレーとも反応に自信がある」と池原が胸を張る。オープン戦3試合で許したTDは、帯広畜産大戦の1本だけ。「相手を分析し、しっかりとアジャストできた」と池原。「冬のフィジカルアップでタックルも強くなった」と自信を見せた。

LB陣の夏合宿のテーマはフィジカルをさらに鍛え、アジリティ能力も高めること。足さばきも磨くという。池原は「今年のリーグ戦では、守備で試合の流れを作る。北海道で一番のLB陣だということを証明したい」と力を込める。ライバルの北海道大を、オープン戦で完封した自信ものぞいた。早川は「去年までDBだったので、パスカバーとタックルには自信がある。インターセプトもしたい」、樺田も「判断スピードが持ち味。オープン戦で課題の修正もできた」と意気込んだ。（塚田博）



「北海道で一番のLB」と意気込む左から早川、池原、樺田のLB陣